ニュース専修

●「専修大学」ホームページ●　https://www.senshu-u.ac.jp/

毎月１回15日発行
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

主なニュース

【新学部長インタビュー】法・商・ネット情報……❷
オンライン授業学部学生アンケート結果……❸
専大カップ　南瀬谷ライオンズが初優勝……❹
経営学部　ビジネスをデザインし思考磨く……❺
石巻専修大学　人間文化学科コース制導入へ……❼

おことわり
マスク未着用の写真は撮影時のみ外しています

大雨による災害で被災された皆様へ

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

専修大学は、被災された学生と保護者の方に対して、安心して学業が継続できるよう支援を行っております。下記の担当窓口にご相談ください。

生田学生生活課	☎044・911・1267
神田学生生活課	☎03・3265・6824
二部事務課	☎03・3265・8359
生田大学院事務課	☎044・911・1271
神田大学院事務課	☎03・3265・6568
法科大学院事務課	☎03・3265・6891

災害救援ボランティア講座

安全衛生や防災学ぶ

大学1位の修了生数

災害救援ボランティア講座で上級救命技能講習に取り組む学生＝6月12日、神田キャンパス

自然災害の基礎知識を身につけ、応急手当てや防災の方法を専門家から学ぶ「災害救援ボランティア講座」を本学では毎年開催している。10年以上にわたり、有事の際に自助・共助に率先して取り組める人材を育成しており、6月末時点での修了生は798人で全国の大学第1位となっている。

講座は、本学と千代田区の地域連携事業の一環として2010年度に始まった。3日間の講義と実技・演習を受講することにより、災害救援ボランティア推進委員会による「セーフティリーダー認定証」と、東京消防庁の「上級救命技能認定証」が発行される。知識を持ったセーフティリーダーたちは、学生部傘下団体SKV（専修神田ボランティア）、SIV（専修生田ボランティア）などに所属し、災害ボランティア活動への協力や、学内・近隣地域での啓発活動に取り組んでいる。卒業後は行政や消防の道に進む受講生も多い。

今年度前期の「災害救援ボランティア講座」が6月に開かれた。応募者約130人から選ばれた40人が、3日間にわたり座学・講習・演習を受講。安全衛生や自然災害について学ぶとともに、救命救急技能の習得に取り組んだ。

12、13日に行われた上級救命技能講習では、胸骨圧迫による心肺蘇生やAEDを用いた救命処置、三角巾を使った包帯法などを学んだ。

宮城県石巻市に住んでいた祖母から東日本大震災時の話を聞いていた根岸竜也さん（ネット情報1）は「災害や防災に関する知識を深めることができた。これからどんな災害が起こるか予想できないが、学んだことを基に、いざというときに的確な行動ができるようにしたい」と語った。

栗栖愛さん（法2）は「小学生のころに倒れている人を発見したが周囲の大人に状況を伝えることしかできなかった。今後、もし同じようなことがあったら、自信を持って必要な救命処置を行いたい」と話した。

後期　10月開講予定

後期の講座は10月に予定している。申し込み方法などは学生向けシステム「in Campus」でお知らせする。

大学生の専門智で描く減災シナリオのすすめ

寄稿

大矢根　淳　人間科学部教授

（おおやね・じゅん）専門は災害社会学、社会調査論、防災社会工学。

線状降水帯、首都直下・南海トラフ地震、それにコロナ禍……と、日々の社会生活を脅かす災害因にさまざまに思いを巡らす日々である。9月1日は「防災の日」。これは関東大震災発災の日（1923年）にちなんだもので、合わせて台風襲来の多い二百十日にもあたる。本学でも災害救援ボランティア講座などが開催されていて、学生の関心も高い。そこでここでは今一歩踏み込んで、防災・減災の主体について考えてみたい。

■　■

絶海の孤島で暴風雨が吹き荒れても、災害は起こらない。ダメージをうける人と社会がそこにあることが前提となる。そこで私たちは日ごろ、社会生活を送りながら、このかけがえのない生命と財産を守るために「防災」を考える。しかしながら、そこで構想されている「防災」は、あまりにもステレオタイプなのかもしれない。

一昨年、台風19号が吹き荒れて、川崎市内のタワーマンションで停電・断水が発生し、快適なマンションライフがその足元から揺るがされた。こうした事態が広範囲で発生したら、数日間、高層階に閉じ込められる高齢者が出るかもしれない。無数に存在する十数階建ての中層マンションに住む高齢者層の安否は誰が確認するのか、そして生命維持に不可欠の物資を誰が届けて回るのか。ライフライン（生命線＝電気、水道等）は止まっている。マンション管理組合やセキュリティー会社も、いざ大規模災害発生という時は、一義的にそこに駆け付けてくれる……、とはならない。そもそも、外力によってそうした日常的サービスに支障が出る事態を災害と定義しているのであるから。

■　■

都心のとある都立高校では、災害発生時には周辺にあるマンションの階段を駆け登って一軒ずつ声掛けをすることとして、地区と相談を始めている。高校生の視角・機動力が災害時のマンション居住高齢者等（災害時要援護者）の安否確認、物資配分に貢献する。高校生がライフラインとなった。これは防災行政から付与された役割ではなく、学校独自のボランタリスティックな地区防災システム構築構想の一部である。このように日ごろから相互に顔の見える関係が築かれていれば、災害時の応急対応はスムーズに展開するだろう。これがレジリエンス（復元・回復力）と呼ばれる力である。

防災は、それが壊れないようにとコンクリートで固めれば達成できる（国土強靱化）のではなく、ローカルにおいて育まれ織り上げてきた関係性の結果として内側から構築される生活を守る仕組み、その力、という一面がある。ハードな構造物が破壊されると、あらかじめ用意されていた常套句としての「想定外」という言葉が言い訳のように連発されるが、そこで思考停止してしまうわけにはいかないだろう。足元のローカル智をもって、適宜・適切に事象に反応していけるように、日常的に想像力・反応力を涵養・調整しておくことが求められる。

■　■

眼前の事象を具に眺めて把握し、その展開を想像して、自身の登場場面を想定してみる。演劇のシナリオライターになったつもりで、被災事象の展開、応急対応の役回りを描いてみる。いかなる幕・場が設定されるであろうか。

大学はさまざまな専門智の格納庫である。皆さんのそうした専門的視角で事態に臨めば、多様なシナリオが描かれるであろうし、そこに登場する役者、すなわち防災・減災に資する人材（財）が、ここキャンパスには実に豊かに存在していることに気づくことだろう。

あなたの専門的視角からは、ボランタリスティックにどのような減災シナリオが描けますか？

専水、専茶のデザインを考案したリーダーシップ開発プログラム８期生

「専水」ラベル一新し販売

リーダーシップ開発プログラム８期生がデザイン

専修大学オリジナルミネラルウォーターがデザインを一新し、「専水（せんすい）」の商品名で発売を始めた。オリジナル緑茶飲料「専茶」もラベルデザインを変更し、1月に先行販売。デザインを担当したのは、昨年度の専修リーダーシップ開発プログラム8期生である名古屋佳祐さん（経済3）、菅江律帆さん（経営2）、井関菜那さん（経営2）、岡崎倖大さん（経営2）、松本誉さん（文2）。「多くの人に新しくなった専水、専茶を飲んでもらいたい」と話している。

新デザインはそれぞれ、校章の下に和風の書体で商品名を力強く表し、従来よりシンプルなデザインに仕上がった。

「専水」はもともと、名古屋さんらが仲間内で使っていた呼び名だが今回晴れて商品名となった。井関さんはポスターも担当し、PRに一役買った。

学内の自動販売機や購買会オンラインショップなどで販売中。

専大松戸高野球部

念願の甲子園初勝利

甲子園初勝利を応援団に報告＝専大松戸高校提供

専修大学松戸高校（千葉県松戸市、五味光校長）が、第103回全国高校野球選手権大会に出場。2015年夏の大会、今年のセンバツに続く通算3度目の甲子園で念願の甲子園初勝利を挙げた。

初戦は8月16日、今年のセンバツ準優勝の明豊（大分県）と対戦。6―0で完封勝利を収めた。22日、長崎商（長崎県）との2回戦では粘りの攻撃をみせたが及ばず、2―6で敗れた。

『オール専修』でのご支援・ご声援、ありがとうございました。